

【日本 I E 協会】新旧会長の交代式をオンラインにて実施しました！

日本インダストリアル・エンジニアリング協会（日本 I E 協会）はこのほど、2021 年度の総会・幹事会を書面決議方式で開催し、新会長に東原敏昭・日立製作所執行役員会長兼執行役員社長兼 CEO を選任しました。そして、前会長の綱川智・東芝取締役役員会長代表執行役員社長 CEO は名誉会長に就任しました。

また、2021 年 5 月 24 日（月）にオンライン（ZOOM）にて会長交代式を行ない、新旧会長からそれぞれご挨拶をいただき、その後、意見交換をしました。

<綱川智前会長／㈱東芝>

綱川です。日本 I E 協会の皆様、これまで、どうもありがとうございました。

2018 年度は、日本 I E 協会が 60 周年を迎え人間でいえば還暦でした。私が会長を勤めた 2019 年度、2020 年度は還暦が終わって 1 年目、2 年目であり、生まれ変わらなければいけないと思い新しい取り組みもしてきたつもりです。2019 年度は、新しいことも少しは取り組めたという認識ではありますが、2020 年度は、コロナ禍の影響が大きかったと思います。日本 I E 協会に入会している会員の皆様からは、現場が見たい、実際に活動を推進している人の話が聞きたいという声があり、オンライン化も検討し一部の研修で実施してきました。しかし、やはりオンラインで話をするだけではなく、現場で取り組んでいる人たちと直接話をするこの大切さをあらためて再認識しました。

日本の労働生産性の低さがいわれており、我々東芝としても永遠の課題だと思っています。I E や I E r は製造現場だけでなく、開発やスタッフの生産性を上げるために「元気の出る I E」の展開が必要だと感じています。

東原様には今後の舵取りをどうぞよろしく願いいたします。



<東原敏昭新会長／㈱日立製作所>

東原です。綱川様にはこれまでの 2 年間、日本 I E 協会の会長としてご尽力賜りまして、ありがとうございました。引き継いで 15 代目の会長として務めさせていただきます。

私は 29 年間工場にいましたので、I E 活動は体に染みこんでいます。

昨今、DX という言葉が先行してデジタル化が目的になり、I E の本質を忘れていないでしょうか。DX が変革のための手段ではなく、目的になっている雰囲気を非常に心配しています。

工場でもオフィスでも、何が工程上の課題なのかを見極める眼力（がんりき）が一番重要であり、それを見抜いた者がプロセスを改善した後に、デジタル化を行なうことが大事です。今はデジタル化が先行してしまい、今の仕事の置き換えにデジタルを使うことが散見されます。今こそ I E 協会の知見をもっと広げるべきと感じています。

また、コロナ禍で「非接触」がキーワードになっており、今後、人間がタッチしないようなロボットを使った完全自動化がポイントになると思っています。徹底して現場を見直して、「非接触」を新たなビジネスの成長のドライバーとして使えるようにしていくことで、With コロナ、After コロナでも I E の視点が入った、新しい業務プロセスができるのではないかと期待しています。

大変な状況が続きますが、ピンチをチャンスにして、せひ、日本 I E 協会の皆さんと一緒に、日本の産業の活性化を頭に置きながら、デジタルとグリーンをキーワードとして、2 年間の任期を努めていきたいと思っています。日本 I E 協会へのご協力をよろしくお願いいたします。



<意見交換（抜粋）>

綱川前会長 先ほど東原様がいわれた通り、ピンチをチャンスにしたいですね。DX や AI と聞くと何となく I E は古いと感じる方もいるかもしれませんが、原点に戻って I E の必要性をアピールできるとよいのではないのでしょうか。

東原新会長 先日、日本 I E 協会にて「I E の強化書」を出しました。素晴らしい活動だと思います。できれば出版に関わられた方や講演をされたり、色々な現場で指導されたりしている方に日本 I E 協会推薦のエバンジェリストになっていただいて、I E を全国に広めていただきたいです。オフィスが得意・現場が得意などはあるとは思いますが、そのようなアプローチもよいと思います。今後、議論をしていきたいと思っています。是非、一緒に盛り上げて参りましょう。

日時：2021 年 5 月 24 日（月）16:30～17:00

会場：オンライン（ZOOM）および日本生産性本部内

文責：日本 I E 協会